

この仕事をしていると、「こだわり」があるということが、いかにいいものを産み出す原動力になるかということを感じさせられる。今回はそんなこだわりを大切にし、思いを形にされた家を紹介しようと思う。

そのお宅は元々1戸建てのお住まいであった。建て替えを機に、お子様方の家や、お仕事先のスペースを盛り込んだ3棟のタウンハウスとすることとなった。



まず施主の方がこだわったがしだれ桜だった。長女が生まれた時に植えた思い出深い桜には、専属の樹木医さんまでいる。その大切な桜を「絶対に傷めたくない。」それが、施主の

方の要望だった。

初期の設計段階において建物の配置や全体のヴォリュームにかかわる大きなポイントとなった。結果、タウンハウスとして完成した今も、桜の木は無事であり、春にはまた見事な花を咲かせることと思う。

3棟のタウンハウスは、外観に統一性をもたせながらも、中は住まう方それぞれのこだわりを大切に設計した。両親のこだわりは、旧家のころより大切にしていた建具、照明器具、手摺などを新しい家に融合させることだった。

例えば玄関には、ドアの内側に防犯用の木製折戸や竹製の手摺。和室では、書院の障子や籐の敷物。書斎と廊下にはレトロ調の照明器具など。階段などには壁にニッチをつくり、そこに愛用の額をかける。新しい住まいに趣き加わり、温故知新の味わいがでている。また、ご主人が絵を描く方なので、様々な絵が飾られて、家の中のいたるところでアートが感じられる住まいになった。

更に、最も明るく見晴らしのよい3Fにリ

ビングダイニングをもってくることにこだわられた。そのため、エレベーターを設置。これで階段の昇り降りの負担を軽減できる。結果、3階の北側の8帖の広さをもつテラスはリビングと一体化し、六甲山の美しい姿を見通すことができ、南側は明るい陽光が差し込む。

そして、こだわりの品々を収納する場所を十分に確保することも強く主張された。

また、お子様方の家は、それぞれの個性と価値観に彩られ、これもまたこだわりの空間となっている。

3棟の中央のお宅は両側を壁にはさまれているが、中庭空間、トップライトを多用することで光と風にあふれ、プライバシーの保たれる住まいとなった。

インテリアはこだわりのシンプルモダンで統一。照明もダウンライトと間接照明というシックな空間となった。

もう1棟のお宅は、ご家族のライフスタイルにこだわった間取りと、小

さな子どものことを考え、楽しく明るいインテリアとなった。外壁には、季節ごとに様々なフラッグを飾る演出をし、内外ともに楽しさの溢れる住まいとなった。

今回、もともと1戸の建物であった敷地の中に、タウンハウスを建てる上で、様々な諸条件による制約や、景観を考慮してのヴォリューム感、芦屋という地にふさわしい建物であるかどうかなどを熟慮しながらの設計だった。

しかし、こだわりがその方をより輝かせ、なおかつ建物も輝かせてくれることにつながるということが実感できるお住まいになった。

